

## 第54回大会エキシビジョン基本組手競技（解説）

- 1- 競技場と規定の服装については、空手競技規定の形競技に準ずる。
- 2- 基本組手競技の構成
  - A- 各チームは2名で構成される。チームの構成は老弱男女を問わず。
  - B- 試合は対戦チームと交互に演武を行い旗による判定。
  - C- 演武の開始と終了は正しい間合いを取り、礼をする。開始と終了は同じ位置から行う。
  - D- 1本目から10本目までの基本組手をその競技会で指定された本数を各チームが独自の構成で演武する。

（平成30年度は基本組手1～6本目の中から3本を選び演武する）

### - 説明

独自の構成とは、指定された基本組手を初めと終わりの礼以外は途中分かれて正位置に戻らず、分かれた際に組手の構えに即時戻り、攻防の間合いを保持したまま次の技へと繋げて行く。その際に競技者の捕り身、受け身の順序が自由で有る事。また、基本組手の開始順序も番号に準じなくとも良い事。例えば片方の競技者が捕り、捕り、捕りや、受け、捕り、受けとし、3本目2本目5本目や4本目6本目1本目と技の順序入替えも可能。同じ演目は二度繰り返さないこと。

### \* 注意

基本組手5本目と10本目の投げ技に関しては、演武の構成を考慮し最後まで投げるか途中で別れるかを定めることができる。途中で分かれる場合は、5本目は捕り身のエンピを行った後と10本目では捕り身が背手金的打を行った後とする。

### 3- 審判団

3名又は5名の技術審議員が採点に携わる。

### 4- 判定基準

審判員は評価をするに当たり、まず初めに和道流基本組手が正確に行われているかどうかを採点しなければ成らない。

審判員が基準にする9項目の内容は下記とする。

**流れ** - 全体の演武が1つの流れの中で行われている事。各攻防がブツ切りで行われているのではなく、静止された状態でも呼吸と目付が正しく活動されていて何処にも隙の無い状態が終止保たれる事を評価。

**間合** - 攻防の際に効力を発揮出来る距離、また分かれた際に遠離近接無きよう緊張を保てる距離。間を詰めるのに時間が係過ぎない距離。

**目付** - 攻守攻防を意識した焦点と首の角度の保持。辺りを見回さない、1点に集中し過ぎない目付。

**拍子** - 攻守攻防に適したタイミング。間が長過ぎて拍子が抜け、近すぎて拍子が取れない事の無い事。

**呼吸** - 呼吸は字義にあらず、受け捕り両者の呼吸の繋がり、心の持ち様が終止保持される事。

**フォーム** - 和道流独特の突っ込みの体形を含む各技の極った時の状態の正しさ。

**バランス** - 演武者の演技中の体形の安定性。演技の構成上、受身が捕身の攻撃を受けてバランスを崩すことは採点に影響されないが、捕身の不安定さは考慮する。捕り身が安定した姿勢で相手のバランスを崩した場合は評価する事とする。

**指定演技履行** - 指定された本数が受け身、捕り身で規定数正しく行われたかを採点する。

**技の構成** - 捕り身、受け身の順序と基本組手の演武順序を入れ替えた結果の技の全体の流れと芸術性を評価。

## 5- 採点方法

各審判員は各自決められた項目を採点しその差を反映して各チームの得点として赤青旗にて判定する。3名又は5名の審判員の挙げた旗の合計数が多いチームを勝者とする。

## 6 出場選手一覧

※ 赤文字は女子

1	マルコ	ロヒヤ	総本部	8	福田	荒木	月例混成
2	金澤	吉川	女子部混成	9	福田	三田	月例混成
3	神田	山口	月例新潟県	10	佐野	内山	総本部混合
4	須山	小山	女子部神奈川	11	湯田(千)	湯田(響)	東京町田
5	工藤	早坂	北海道	12	高野	小林	茨城県
6	古賀	岩崎	佐賀県	13	田村	太田	静岡県
7	三谷	吉田	愛知県	14	内田	池田	千葉県

※トーナメントの組み合わせは当日発表する。